

こんにちは！今回は前回に引き続き去年9月に行った旅行記後半編でお送りさせていただきます。

高校の同窓会へ出席するために家族と友人総勢6名でイタリアはフィレンツェを経てスイスへ入国！するはずだったんですが、何と出国当日ホテルに“スイス行き航空機キャンセル”との連絡。空港で直接確認しか方法無かったので、一か八かで向かうとやはりキャンセルに…でも勝手に次の便に移されていました。一同何とか最終便でスイスへ入国成功！イタリア人の気ままだに振り回された一日でした。

翌日は軌道を修正すべく、早起きして出発！列車に乗り込み目指すは我が第二の故郷レザン。このレザンという標高1400メートルにある人口2000人程の小さな町で3年間高校生活を送っていました。

さて、列車に揺られること2時間弱でエイグルという駅に到着。ここから登山列車に乗り換え山を登ります。途中葡萄畑やお城などの懐かしい景色にきゃーきゃー言っている私たちを見て、運転手さんが記念にと運転席まで入れてくれました。ヤッター特等席！

30分程で目的地レザンへ到着！トランクゴロゴロ転がしながらホテルを目指します。正直向こうの人は旅行にトランクを使う人が少ないので、私たちの姿はちよっと異様でしたし、早速ホテルで困りました。なんと私たちの部屋がエレベータ無しの上階(4階)。女子3人が必死でトランク3個担いで上がったのにはホテルのおばちゃんもびっくりしていました。と同時に日本のバリアフリーのありがたさを実感しました。

しばし休憩して早速母校へ。学校に寮が併設されているので懐かしい先生と再会しつつ自分たちが暮らした部屋も勝手に覗いてきちゃいました。10年以上ぶりなので自分のベットから電気のスィッチ一つに至るまで隈無くチェック。その後よく通ったスーパーやカフェなど町散策もしました。驚いたのが当時スーパーには日本食なんてお醤油くらいしか置いていなかったのに、今や日本米、豆腐、調味料、アサヒビールなどバラエティーがとっても豊富になっていました。日本食がこんな所まで浸透しているなんて私たちが暮らしていた頃には考えられません。

そうこうしているうちにdinner time！これを同窓会と同じ位楽しみにしていたんですよ…“チーズフォンデュ”。やっぱり本場は全然違いますよ。例えば日本は色々な野菜を入れて食べますが、こっちはパンとジャガイモだけ。あと“トマトフォンデュ”と“ミートフォンデュ”という種類があります。前者はチーズにトマトが練り込んであり、ほんのリトマトが香るフォンデュ。後者はハーブの入ったオイルに牛タン程にスライスしたお肉を“しゃぶしゃぶ”して数種類のソースを付けて食べるフォンデュです。しかし久しぶりに食べるフォンデュは本当に美味しい！しかも当時は飲めなかったワインもたらふく頂けましたからね。フォンデュとワインの相性がこれまた…最高！名コンビ！これでもかという位堪能させて頂きました。

同窓会も盛大に行われ、卒業以来の友人や先生方に沢山会えて、しかもお酒を酌み交わすことが出来ました。酔った勢いで当時の秘話など盛りだくさん教えてもらったり、皆でバーへ繰り出して踊ったり一緒にいる時間はすごく短かったのですが、先生も私たちを一人前として扱ってくれたことが何より嬉しかったです。何はともあれ今回の旅は人数も多かったせいかな小さなトラブルが多発でした！でも、やっぱり色々な人と出合い美味しいものを食べて飲むという旅の醍醐味を120パーセント味わえて今回も大満足です！さー私の食い倒れ旅は今年も続きますよ。次はどこへ行こうかしら。

寒さ厳しい毎日でもそろそろ終わろうかという頃に起こった地震・津波・原発爆発という未曾有の惨劇を目の当たりにするとさすがに平常の気分ではいられません、毎度おなじみのこの駄文では努めて平常のことを書こうと思います。

というわけで今回は、いつもコレクティブに遊びに来てくれるN野くん、N井くんと京都レコ屋めぐりをしたときのことも書いてみます。

京都のレコード屋を教えてほしいとのN野くんをアテンドするべく、まずは三条京阪で待ち合わせ。N野くんは駅ビル直結のブックオフですでにCDを物色しているところからして気合い満々の様子。ブックオフでの買物を終え、まずは三条大橋を西に。橋を渡ってすぐのビルにはブーツィーズという店があるのですが、ここは知っているとのことでスルー。木屋町を少しあがって御池通の手前にはワークショップ・レコードという店がありますが、ここも知っているとのことなので連続スルー。

最初に入ったお店は、寺町御池をすこし上がった古いビルのなかにあるホットライン。この店はロックがメインという感じで、ディスコ/ソウルあたりはそれほどスペースはありませんが、たまに発見もある、というようなよくあるタイプの店です。この店でレコードをみているときにせっかくなんでと京都在住のN井くんも電話で誘ってみたところ、参加するとの返事。店を移動しつつ連絡を待つことに。

さてホットラインを後にして寺町通を下がり、寺町三条のハッピージャックもスルーし、新京極にあるトラドラレコードに入ったところでようやくN井くんも合流となりました。この店は比較的新しい店できれいな店内にはODも豊富なのでぶらり立ち寄りやすいのでは、と思います。なおN野くんはこの店で数枚ジャケ買いしておりました。

トラドラを出て次は、移転してトラドラから少し下ったところに店を構えるスーパーミルクに寄り、さらに続いては東桐院にあるポコポコに向かいました。途中で軽く道に迷うという失態をおかしてしまいましたが、この道中に立ち寄った店(名前失念！)でN野くんはミックスマウスディスクなる珍盤をゲット。

こうして京都中心部の非常に狭いエリアをぐるぐると、ほかのことは目もくれずただレコード屋だけを目指してうろろするという充実の半日を終え、われわれ3人は手に入れたレコードを手で晩酌へと向かったのです。なにぶんにも厳冬下での敢行でありましたゆえ記憶にあやふやなところもありますが、ほぼこの道のりだったのではないかと思います。界限にはほかにもいくつかのレコード屋がありますので、ぶらぶらしながら探してみてください。

てなこと、みなさんの散歩の参考にでもなれば幸いです。

information

次回コレクティブは夏頃の開催を予定しています。詳細はブログでご確認ください。

<http://blog-collective.blogspot.com/>



いつもcollectiveで時間を共有してくださる皆さん、ありがとうございます。もうすっかり春と真ん中の4月2日ですが、2011年2月12日(土)の一夜、それまでの道のりについて書きたいと思えます。日ごろ親しくお付き合いしてくれている方、また、当日難波のROCKETSへ足を運んでいただいた方は、なんのことかお分かりだと思います。

最も敬愛するDJ/クリエイターのテレンスパーカーの来日ツアーが実現し、初の大阪公演が実現したことです。話が決定したのが4ヶ月前。僕としてはオーガナイズという行為そのものが初めてだったので、出演メンバー、ライヤーをどうしようか、まったくのゼロからのスタートでした。

案の定、色々と難航しながらなんとか動き出したわけですが、この不安な気持ちも落ち着けるには、当日まで自分の体使って宣伝しまくるしかない。口下手で不器用な僕がこの強烈なテレンスパーカーの魅力をかき伝え、興味を持ってもらうかを考えた結果です。

以前は友人のイベントにしか顔を出さなかったわけですが、完全にそこから切り替えて、毎週末、可能なかぎりパーティーに足を運び、ライヤーを渡しながらシンプルな言葉で話しかけていきました。彼のことをよく知らない人にウンチク並べたって心に響くわけない。僕にフロアで初めて会う人だったら、それはなおさらのこと。それなら、遊びに行くパーティーひとつひとつを楽しんで、目一杯踊って、目一杯飲みながらそのお客さんとその共時性を分かち合いながら自分の言葉で話しかけよう。そのスタイルを崩さず、前日までやり通すしかないと思ったわけです。

声をかけるのも勇気があるし、言葉振り絞ってなんとかライヤー渡しながらフロア一周して戻ってきたら、最初に渡したお客さんがそのままライヤーをテーブルに置き去りにしたままだったのを見てめげそうになったり、「誰それ？タダで入れてくれんの？」とか言われて「この野郎！天下のテレンス様だぞ！」って思い切り心の中で激怒しながら「まま、絶対面白いからきてくださいよー。」とか笑顔で言えるようになっていって、徐々に打たれ強くなっていく自分もいて、そんなことしているうちに体を壊しながらも気持ちはタフになりながら2月12日に向かって、一直線に突き進んでいました。

ガンガン遊んでガンガン配るスタイルが自然となっていくうちに、「あ、テレンスパーカーの人ですよ？」って声をかけられたり、「このライヤーもう3度目ですよ。よく会いますね。」と言われたりして、徐々にテレンスパーカー2月12日ロケッツっていう情報が確実に広がって言っていることと、僕の顔を知っている人が増えていっていることが実感として受け止められるようになりました。本当に友達が増えた。そしてもうその友達とは上っ面の付き合いじゃなくなっていたのです。そして、以前からの友達からは心からの応援をしてくれていました。

気合入れてここまで頑張ったことは今までの人生の中でなかった。受験や就職も頑張ったけど、エネルギーの出どころが明らかに違う。心から自分の大好きな人のためにできることをひたすらがむしゃらに続ける。まるで、それによって、自分自身、まったく違う自分にこんにちではできるような感覚。

スタートがあってゴールがあるということ。自ずから人はそのゴールを想像するようになります。例に漏れず僕は「その日」が近づくとつれ、どんどんそのゴールを思い描くようになっていきました。どれだけのお客さんがきてくれて、テレンスが…。

テレンスに僕は何を思い描いたか。初の大阪公演に際して、大阪の熱狂のフロアというものを刻み付けて帰ってほしい。そしてテレンスには大阪の救世主になってほしいと思ったのです。大阪のクラブシーンが厳しい状況にあることは昨今のアメ村界隈の情勢をご存知の皆さんはご存知でしょう。そんな彼に僕はこの一夜限りの特別な衣装を用意したのです。それは「縦縞のタイガースユニ、背番号は救世主の背番号44！！」

運命の当日、東の間の夕食会で僕はテレンスに「これはお土産です。そして、今晚のあなたの衣装です。」と言って手渡した時、彼は「OK！着るよ。」と言ってくれたのです。ようわからん日本の野球のユニフォームを。サウンドチェックは必要ないと一旦ホテルに帰った彼を見送った時に僕は半分諦めていました。どうせ「ごめん、忘れてきちゃった。テへ。」とか言うんだろうなあ。

なんと自分が愚かだったかを思い知らされたのは、彼がコートを着てブースに現れた午前1時過ぎ。襟元からチラッとあのストライプが見えたとき僕は涙が出そうになるぐらいうれしかったのです。この人は本当に人間として尊敬できる人であるということ僕はその瞬間に悟ったのです。

英語が全くできず、ルー大柴ほどのハートをキャッチ！キャッチ！チャッチ！できるほどの踏み込みもない僕のような人間がホストをやっているパーティーで、彼は怒涛の7時間プレイを披露し、フロアにいる全ての人のハートをキャッチ！キャッチ！キャッチ！してくれたのです。僕らと一緒にback to backしてくれたり、CDセットで来ていた彼が「君のレコードボックスはこれかい？」と聴いてその中からおもむろにMembers Of The House/Party Of The Year (TP's Dub (Underground Mix))を取り出してかけてくれたりしたことはまるで夢のような体験でした。

逆に常にリアルだったのは、フロアで目一杯楽しんでくれた多くの友達の踊りながらの笑顔！本当に出会った場所もタイミングも違う友達と同じフロアで最高の笑顔で僕の大好きなテレンスのDJと一緒に、このフロアに溢れるなんとも言えない多幸感を分かち合っていました。



終わってみて、正直、この文に書けないようなこともあったし(ここで文にするべきでもないと思う)、周りの人々には数え切れないほどの御礼をしなかつたし、たくさん迷惑もかけました。

もう、こんなお祭騒ぎは当分出来ないと思うし、それだけ大きな祭には多くの方が関わっていて、それだけの人を巻き込んでいるってこともよくわかりました。この経験は僕自身の人生を大きく変える一つの出来事だと後々振り返っても間違いなく言えると思うし、一生モンの財産となることは間違いありません。今後はより一層地に足をつけて頑張っていきます。次回こそどっしりとテレンスを迎えられるように。

<http://www.youtube.com/watch?v=b5Mvqq5enGY&feature=related>

そんなテレンスが3.11に起きた東日本大震災に対し、メッセージとDJ MIXを捧げてくれました。詳しくは以下のURLをチェックして下さい。

DETROIT Loves JAPAN!
http://web.me.com/kadoi0920/Detroit_Loves_Japan/Music.html

Terrence Parker "DJ Mix for Japan" + Tracks to overcome hard time

Terrence Parker

Here is a song by gospel singer Dorinda Clark-Cole that gives me inspiration in hard times

下の曲は私が人生の難しい局面に直面したときにインスピレーションを与えてくれます。

"Don't be discouraged Joy comes in the morning Know that God is near Stand still and look up God is going to show up He is standing by There's healing for your sorrow Healing for your pain Healing for your sorrow Healing for your pain Healing for your spirit There's shelter from the rain There is healing for your soul"

Lyrics from the song "Healing" by Richard Smallwood (recorded in Detroit)

気を落とさないで朝にはよろこびがやってくる 神はいつもそばにいる 見上げれば神は現れる 彼はいつもそばにいる あなたの悲しみを あなたの痛みを あなたのスピリットを癒してくれる あなたの魂を 祈りから守ってくれる あなたの魂を癒してくれる

Richard Smallwood "Healing"の歌詞より (デトロイトにて録音された曲です)